

新基地建設反対名護共同センター ニュース

勝つまでは諦めない。島ぐるみ草の根スタンディング

明るく・元気に・粘り強く

「島ぐるみ会議 いとまん」

本島最南端の「島ぐるみ会議・いとまん」の毎週火曜日の朝宣伝は明るく元気です。8時から宣伝が始まります。

8月15日(火)に取材に伺いました。ハンドマイクが2台、ノボリ旗が乱立し、プラスターを持った人など総勢8人でした。

最初に大城さんが訴えます。同時に司会進行をします。歌・三線が紹介され、「沖縄を返せ」を披露。二人目の弁士は前田潤市議会議員、その後、歌・三線が披露され、最後に玉城ノブ子県議が訴えた後、三度目の歌・三線の時は短歌も披露されます。最後に司会の大城さんが閉会挨拶して宣伝行動は終わりました。

片づけが終わると、参加者が輪になってその日のまとめを行い、今後の行事日程などを確認し合って散会となります。この日、右翼の宣伝カーが邪魔をしにきました。大音響で何度も宣伝隊の前を走行し、「戦争反対の理想などを掲げて歩道を占拠し…」などと攻撃。まさに、戦争が近づいているかのような雰囲気でした。宣伝場所は第1週から第5週まで決めてあり、粘り強く取り組んでいます。



約6年前から毎週火曜宣伝

島ぐるみ八重瀬の会

「島ぐるみ八重瀬の会」は、天候の悪い日を除き、毎週火曜日の朝7時半からメイン通りの伊覇交差点で宣伝をしています。最初はノボリ旗と手振りの宣伝、8時から宣伝カーを使い街頭宣伝。6年前から取り組んでいます。



8月8日(火)は、行ったり来たり迷走ノロノロ台風6号と思われる強い風が吹くなか、4人が集まり宣伝に取り組みました。

8時からマイクを手にした神谷信夫議員は、「8月6日と明日9日は78年前に広島と長崎に原爆が投下された日です。6日の広島原爆式典で広島市長は、『政府の言う核抑止力は核廃絶に繋がらない、核兵器禁止条約の締結こそ核廃絶を訴える被爆者の切実な声だ!』とその内容を紹介し、新基地建設反対、核廃絶を訴えました。



南風原島ぐるみの会

辺野古新基地建設ストップ

南風原島ぐるみ会議が二〇一五年八月一日誕生から早八年経ちます。政府が北部・名護市東海岸に何が何でも新基地を造るという不条理な国策に、南風原からも声を挙げようと始めたそうです。

周に一回、安和棧橋ゲート前で埋め立て土砂搬入へ抗議。毎月第一土曜県民集会へもバスを用意して参加してきました。地元でのアピールも必要ではないかと、兼城十字路にて毎週金曜日の午後五時半から四五分間、(冬場は五時より四五分間)のスタンディングを続けています。

大きめの立て看板を掲げながら通り過ぎる車に手振りをします。南風原のノボリは会員の申し出によるカンパでできています。何よりの宝は会員さん手作りの丈夫な八枚の看板です。時を経ることにその有難さに感謝していると…。共同代表の一人でもある知念良吉さん、隣町の仲宗根朝吉さん、二人のミニージャシヤンが時折、十字路で元気な歌、心に沁みる歌を歌って励まして下さいます。

政府が断念するまで街頭に立ち、「命どう宝、世界の正義をあきらめることなく訴え続けていきたい」と話しています。



辺野古基地反対協が学習会

沖縄に自治はあるのか？ 神話なのか

へり基地反対協は8月8日に名護市の港区公民館で、徳田博人(琉球大学教授)を迎えて『辺野古裁判と誇りある自治』について学習会を開催しました。近々、沖縄辺野古埋め立て変更不承認をめぐる裁判の最高裁判所の判決が出ます。日本政府は私人に成りすまし、民意に逆らい、出来損ないの新基地建設を強行するのか、沖縄に自治はないのか？ 逆らったら沖縄予算を削り、県民に分断を持ち込み、地域社会を破壊する蛮行を続ける日本政府。どれ一つとっても許されない。政治は国民のためにあるはずだが現実には真逆に進んでいる。最高裁は法の番人か、権力の番犬か？ 法に対する信頼が大きく揺らいでいます。

